

鹿児島医セン

連携室だより

2007.7 No.16

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

院内オーダリングシステム稼働開始

外来予約制についてのお願い

『鹿児島医療センター連携室だより』15号に当院の院内オーダリングシステム稼働予定についてご案内とお願いを致しました。この連携室だより(16号)が、お手元に届く頃には稼働していることと思いますが、当院のオーダリング稼働に伴う外来予約制について再度お願いを致します。

当院では、少しでも早く診察を終えようと、朝早くから多くの外来患者さんが順番とりに受診されていました。その結果として受診が少し遅くなると、待ち時間が長くなり、病院に来られてから会計終了まで5時間以上ということもありました。待ち時間が長すぎるとのご指摘もあり、一部の診療科では予約制をとっていたものの、予約時間を守れないことで逆にお叱りを受けることも再々ありました。外来患者さんにとって診療が凡そ何時に終わるかわかると、その日の予定もたてやすくなります。そこでオーダリング開始と同時に病院全体を予約制に移行し、待ち時間短縮を図ることにしました。当院の各診療科の外来をみますと、診察から始まる診療科もあれば、何らかの検査を行ってから診察となる診療科もあります。外来予約時間は、理想的には診察開始時間とすべきですが、各診療科の状況をふまえると一気にそこまでもっていくことは困難です。そこで今回の外来予約時間は、病院にきて受付をしていただく時間とし、外来患者さんの来院時間を分散させることで、待ち時間の短縮を図ることにしました。(受付後、検査があれば先に検査、検査がなければ診察から始まります)。予約患者さんについては、再診受付機を利用することで検査や診察にスムーズに回っていただけるようにも配慮しました。逆に、予約なしの場合は医事受付となり、検査、診察なども予約患者さんよりも遅くなります。



一方、紹介状持参の新規患者さんについても、今までは医事受付でカルテを作成し、それから当該診療科受付へという流れで、診察開始までにかなりの待ち時間が発生していました。今後は、ご紹介いただく医師会の先生方からカルテ作成に必要な情報(患者さんの名前、生年月日、住所、保険に関する事項及び紹介状など)を、事前に当院の地域医療連携室(Fax番号 0120-334-476)へ連絡いただければ、カルテ作成も事前にでき、診察日、来院時間も決定することができます。このようにすると、ご紹介いただく患者さんの待ち時間も短縮できるかと思えます。勿論、再診、初診あるいは予約の有無を問わず、様態の悪い患者さんの診察については優先致します。

操作訓練やリハーサルを繰り返してきましたが、オーダリングシステム稼働開始後しばらくは、システムに対する我々の不慣れや外来予約制をご存知でない患者さんの来院等で、混乱があるかもしれません。患者さんや医師会の先生方のご理解、ご協力をお願い致します。

オーダリング委員長 花田修一

職場紹介

西3階病棟

西3階病棟は平成19年4月より外科・消化器科・耳鼻いんこう科のがん系の病棟として新たなスタートをきりました。外科・耳鼻いんこう科の外科的治療を受ける患者様に対しては術前・術後の急性期、回復期を通した看護を行い、消化器科においては内視鏡検査・処置及びがん化学療法・放射線治療法などの治療がスムーズに行われるように援助を行っています。

4月に師長をはじめ看護師が半分以上かわり日々の業務がスムーズに行えるか不安でしたが暗中模索状態ながらもスタッフが協力しあい3ヶ月が経過しようとしています。7月にはオーダーリングシステムが導入されるのでシステムの利点を活かした看護ができるように現在一人一人が操作訓練に励んでいます。

オーダーリングシステムは、医師やコメディカルスタッフの協力がなければ出来ませんので連携をとり



ながらやっていきたいと思っています。6/21より新しくクラークさんが配置されスタッフステーションのカウンターが明るくなりました。患者様や家族、面会の方が声かけやすくなり患者サービスにつながればよいと思っています。

西3階病棟師長 和田多美子

ひとくち 診療メモ

「経鼻内視鏡について」

経鼻内視鏡による苦痛の少ない上部内視鏡検査(胃カメラ)が、最近注目を浴びています。経鼻内視鏡による上部内視鏡検査は、主に個人クリニックを中心に導入が開始され、徐々に検診施設などに広がりつつあります。当院では、平成19年4月から経鼻内視鏡のファイバースコープ(オリンパスGIF-XP260N:細径約5mm)も導入しております。従来の経口アプローチでの上部内視鏡検査で嘔吐反射が強く苦痛であった患者さんは、経鼻内視鏡で検査することにより、ファイバースコープが舌根部に触れないため、嘔吐反射がなくなり苦痛なく検査を受けることが可能です。経口法と経鼻法の上部内視鏡検査をどちらも経験した患者さんに、次回はどちらの検査法で上部内視鏡検査を受けたいかをアンケートしたところ7~8割の方が、経鼻法の内視鏡検査を希望されたというデータもあります。抗凝固剤を内服している方は、鼻出血の頻度が増えるため、従来の経口法が望ましいと思われます。以前、胃カメラ検査を受けてみて、嘔吐反射が強く、もう二度と胃カメラ検査は受けたくないと思った方は、今度は経鼻内視鏡による胃カメラ検査を受けてみてはいかがでしょうか。

(消化器内科医長 藤島弘光)

緩和ケア研修会のご案内 当院大会議室において、緩和ケア研修会を開催致します。

日時 開催日：平成19年8月10日(金)

開催時間：18:30~20:30

参加希望の方は、地域医療連携室(内線7330)までご連絡下さい。

プログラム

「一般病棟における緩和ケアの実際」

講師：独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター
がん性疼痛看護認定看護師 山崎 弘子 先生

「化学療法におけるがん化学療法認定看護師の役割」

講師：独立行政法人国立病院機構 九州医療センター
がん化学療法看護認定看護師 土井 晴代 先生

新new任 紹face介



消化器科レジデント

いわや ひろみち
岩屋 博道

平成16年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学病院にて2年間研修しました。平成18年4月より(旧)第二内科に入局し、この度消化器科レジデントとして勤務することになりました。消化器内科としての勤務ははじめてであり、ご迷惑をかけることもあるかと思いますが、これからもよろしくお願ひします。



消化器科レジデント

まきの ともあき
牧野 智礼

平成17年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学病院にて2年間研修しました。平成19年4月より(旧)第二内科に入局し、この度消化器科レジデントとして勤務することになりました。消化器内科としてはまだまだ未熟であり、ご迷惑をかけることもあるかと思いますが、これからもよろしくお願ひします。



第二循環器科レジデント

ながよし しんや
永吉 真哉

H16年鹿児島大学卒業し、2年間東京で研修し、H18年に鹿児島大学旧第二内科に入局しました。昨年4～10月まで当院にて勉強させて頂き、再度今年の4月より第二循環器科にてお世話になっております。力不足ですが、ご指導の程、宜しくお願ひいたします。



小児科レジデント

わだ あきひろ
和田 昭宏

平成10年に鹿児島大学医学部を卒業し、同年5月鹿児島大学小児科に入局しました。大学と市立病院以外は地方勤務が長く、久々の市内勤務です。本年3月までは、福岡市立こども病院で小児循環器を勉強させていただき、4月より当院で勤務させていただくことになりました。ご迷惑をおかけするかと思いますがよろしくお願ひ致します。



泌尿器科レジデント

いぐち さとる
井口 智生

平成15年に鹿児島大学医学部を卒業し、同年鹿児島大学医学部泌尿器科に入局。入局後3年間は鹿児島大学病院、4年目は串間市民病院にて勤務しまして、平成19年4月より当院泌尿器科へ勤務させていただいております。まだまだ未熟な点も多いですが泌尿器科系手術・血液浄化療法を中心に患者様のために日々精進していく所存であります。どうぞよろしくお願ひします。



麻酔科レジデント

むらおか よりのり
村岡 頼憲

3月30日に大学病院を解雇になり3月31日より働く先がなく困っていた所、貴院よりお誘いがあり4月1日より麻酔科で働くことになりました。

多くの病棟に立ち寄ることがあると思いますが怪しい人ではありませんので警備員に通報しないでください。高校まで東京に住んでいたため東京都出身です。少し自衛隊にも勤務した変わった経歴を持っています。

よろしくお願ひします。

登録医医療機関紹介 第4回

康生クリニック

康生クリニックは、平成18年1月、内科、呼吸器科、消化器科を標榜し開院したばかりの若輩クリニックです。妙円寺詣りで知られる？伊集院町徳重に位置し、無床診療所として外来診療のみを行っています。胃腸内視鏡検査、CT検査を行うため、医師3名（非常勤2名）、看護師8名、事務4名のスタッフで構成されています。「何故、康生？」とよく聞かれます。「健康に生活する事を願って」と答えますが、実は亡き父が柔道家であった事、井上康生のファンである事も関与しています。

少し建物の話をさせてください。当院を開院するにあたって、重々しいイメージを無くし、気軽に来院出来るような診療所にしたいと考えました。看板を排除、美術館のような外観とし、室内には、一筆書きのピカソを始め、大人も子供も楽しめるユニークな大小のポスターを飾りました。これが当院の特徴の一つだと思います。「病院に来たようじゃなかね。」患者さん方の評判もまずまずです。「看板くらいはあってもいいのに、来るのに迷ったがね。」と言われた事もあります。が・・・。

医療の話にもどります。私はかかりつけ医として、地域の人々の健康管理、そして病気の早期



発見、早期治療が重要であると考えます。しかしながら、専門外疾患や、精査、入院治療を要する患者さんも多数みられ、対応の難しさを感じております。鹿児島医療センターへは、開院以来、心筋梗塞、急性心不全、急性白血病、脳卒中など、緊急入院治療を含む77名の患者さんをお願いしており、貴院の高度医療、緊急対応の素晴らしさに、ただただ頭の下がる思いです。貴院に安心してお願い出来ます事を、患者さん共々深く感謝しております。病診連携とは、病院と診療所が連携して、患者さんにより良い医療を提供する事ですが、貴院の迷惑にならないよう頑張っていきたいと考えています。

今後ともよろしく申し上げます。

桑水流 康夫

登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

〈地域医療連携室〉 濱田、大渡、平田、中島、田添、池上、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

